FURE相双地域支援サテライトの活動

地域復興支援

事業立上げは「それ、おもろいやん」から！奈良県地域振興部・福野次長をお招きし、特別講演会を開催。

「ふたばの明日を考える会」の協力のもと、１０月２５日（木）、広野町公民館にて奈良県地域振興部・福野次長の特別講演会を開催しました。「奥大和」地域の振興に取り組み「スーパー公務員」の異名をもつ福野さんからのメッセージは、「人に会い、話を聞き、自分事として楽しくて、家族に自慢できる『かっこいい』ことを、失敗を恐れずすぐやることが大事！」でした。

相双地域の視察や、自治体職員との交流もしていただき「必ずまた来ます！」と力強いお言葉をいただきました。

１１月より川内分室に着任しました！

川内村、葛尾村、田村市都路地区を担当します岡田と申します。これまで福島県内や県外で復興支援活動を経験してきました。被災者の方が孤立しないよう見守りネットワークの構築、自治会ごとに支え合いマップの作成、営農再開のための農業支援等を行ってきました。

今後は、地域資源・課題のヒアリングから始めていきます。課題解決やそのための各機関のつなぎ役として、住民－行政－大学等の連携を目指しながら、住民目線で活動ができればと思っています。

産業振興支援

イノベーションは身近なもの

被災した地域の産業振興のため、地域に根ざしたパートナーとなることを目指して活動を行っています。

知財保護のため詳細は控えますが、被災した地域で産出される素材を使った商品開発のお手伝いをしました。

イノベーションは、先端技術だけではなく規模の大きさに左右されるものでもありません。地域の中の何気ないところに隠れている「ありそうでなかったもの」を、その地域の皆様と一緒になって探し育てることで、地域産業の振興に繋げていきたいと考えています。

地域の方との率直な情報交換から次のステップへ

教育環境整備

古河電池株式会社を講師に迎えて理科ワークショップを開催

１２月１８日（火）、広野小学校の６年生を対象に「電池にまつわる電気のはなし」と題し、理科ワークショップを開催しました。講師は、いわき市に事業所を持つ古河電池株式会社の皆さんに依頼しました。バッテリー製造の会社なので、授業の中では、さまざまな種類のバッテリーの実物に触れる機会もあり、特に探査機「あかつき」や人工衛星「はやぶさ２」に搭載したというバッテリーに、子どもたちも興奮気味！

前半、蓄電池を含めたエネルギーに関する座学をしたあと、後半はエコカーを組み立てて、手回しで発電させ電気を貯めて車を走らせたり、豆電球を点灯させたりする実験をしました。6年生は理科の授業で発電について学ぶタイミングということもあり、発電の種類によるメリット・デメリットや温暖化の課題など、身近な「電気」に大いに関心を持ったひとときでした。

相双・まちの声

さくま接骨院
院長　佐久間 康貴さん

楢葉町の避難指示解除に合せ診療を再開し、早三年以上が過ぎました。

帰還されている方も高齢者が多く、自宅や庭の手入れや農作業等に伴う肩、腰、膝の痛みを訴え来院する方が多くいらっしゃいます。

以前のようにスタッフは多くないですが丁寧な施術を行っています。早期の手当が症状の改善に繋がります。いつでもご相談ください。

◆住　所：双葉郡楢葉町下小塙佐野３－１６
◆電話番号：0240-23-4366
◆診療時間：　8：00-12：00、14：00-17：00
土・日・祝日は休診

サテライト職員・西 康一の農業応援記

第３回　浪江町　石井農園さんの紹介

浪江町の石井絹江さんを中心とした石井農園さん。福島市でも農業を営まれており、６次化（第一次産業が食品加工・流通販売にも業務展開する経営形態）にも取り組んでおられます。今回訪問したのは、浪江町の国道114号線に沿いにあるエゴマの里。看板がありますので、ご存知の方もいらっしゃるかと思います。福島市で育苗を行い定植されたそうです。エゴマは「じゅうねん」とも呼ばれ、この地域でもじゅうねん味噌等で食されてきました。エゴマ油には、α－リノレン酸が豊富に含まれており、体に良い食品です。

地元産の健康食品を積極的に取り入れ、健康寿命を延ばしましょう！

「ようこそエゴマの里へ」の看板が目印です▶

次号 第21号は2019年4月頃発行予定です。

2019 冬号

相双地域支援サテライト　ニュースレター

相双の風

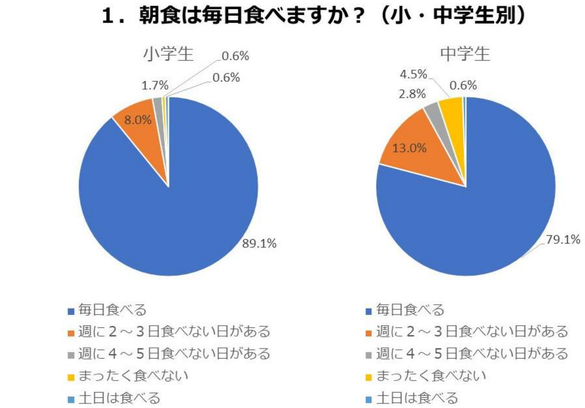
福島大学うつくしまふくしま未来支援センター　第20号

●発行
福島大学FURE相双地域支援サテライト
[福島大学 企画・連携担当]
福島市金谷川1
TEL:024-504-2834

[楢葉本所]
TEL:0240-23-6675
[川内分室]
TEL:0240-25-8995
[南相馬分室]
TEL:0244-24-2563

「相双の風」は、相双地域の今と、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター（FURE）相双地域支援サテライトの地域復興に向けた取組みを紹介するニュースレターです。

朝食を「毎日食べる」小学生89%、中学生79%全国平均とほぼ同じ



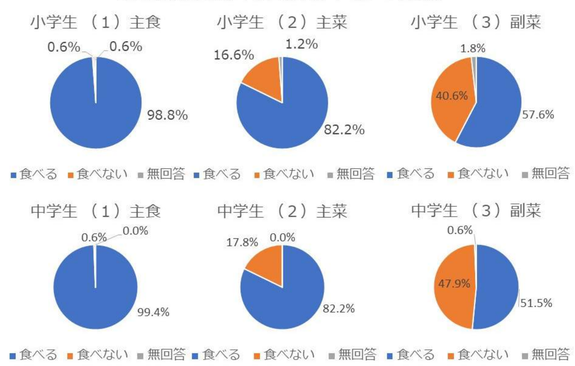
全国平均は「毎日食べる」小学生85%、中学生80%

「朝食は毎日食べますか」

上のグラフにもあるように「毎日食べる」と回答した小学生は89.1%、中学生は79.1%でした。

文部科学省「平成30年度全国学力・学習状況調査」においても同様の質問をしており、小学６年生・中学３年生が答えています。「している／どちらかといえばしている／あまりしていない／全くしていない／その他」の５段階で答える形式で少し聞き方は異なりますが、「毎日食べる」と回答した小学生は84.8%、中学生は79.7%と、小学生、中学生ともに差異はありませんでした。

副菜を「食べない」小中学生４割以上



双葉郡の子どもたちを対象とした「食に関するアンケート」調査

相双地域支援サテライトでは「食育から生きる力を養うワークショップ 2018」の開催に先だち、双葉郡８町村の子どもたちの食の実態を把握するため、５月～７月に「食に関するアンケート調査」を実施しました。

東日本大震災及び原発事故後、双葉郡における小中学校では長期にわたる避難生活のため、運動不足による体力低下や肥満、食の細さが指摘され、大きな課題となっていました。これまでサイエンス教室や子どもたちの体力向上を目的としたワークショップ等を企画・実施してきましたが、食の課題解決には運動だけでなく総合的な取り組みが必要ではないかと考えました。そこで相双地域の教育委員会や各校の協力のもと、小学４年生～中学３年生までの子ども本人を対象にアンケート調査を実施し、実態把握を行いました。

10/20に開催した「食育から生きる力を養うワークショップ」の様子

「どんな朝食を食べていますか？」

小学生・中学生ともに、ごはん・パンなどの「主食」はほぼ全員が、魚・肉・卵などの「主菜」も80%以上が「食べる」と答えています。しかし野菜などの「副菜」になると「食べる」と答えた小学生は57.6%、中学生は51.5%に減り、中学生女子では44.6%という結果でした。

朝食を「毎日食べる」子は学年が上がるごとに減少

学年ごとに見ると、朝食を「毎日食べる」と回答した小学４年生は83.7%、小学５年生は95.5%、小学６年生は86.4%、中学１年生は87.8%、中学２年生は79.0%、中学３年生は72.7%と学年が上がるごとに減少する傾向にあります。

朝食を食べない理由を尋ねた設問には、小学生は「めんどうだから」が３名で最も多く中学生は「食欲がないから」が11名で最も多い結果でした。少数意見でしたが「家族も食べないから」「食事が用意されていないので」という家庭での食事の在り方の変化が気になるような回答も見られました。

特集

そこに当たり前にあった日常を取り戻すために何ができるのか、多くの人に考えてもらうきっかけを作りたい！

SOU-SOU リボーンツアー

相双

学びや交流から生まれる「共感」と、復興に対し何ができるかを「一緒に考えてもらうこと」を大事にしたツアーです。

2011年３月、東日本大震災とそれに続く東京電力福島第一原子力発電所事故という、未曾有の複合災害に見舞われた福島県双葉郡。復興にはいまだ多くの課題が残されている一方、震災から７年が経過し、社会や人々の関心が薄らいでいるという厳しい現実があります。

そこで福島大学うつくしまふくしま未来支援センター相双地域支援サテライトでは、地域を対外的により開かれたものにし、様々な企業・団体・人が繋がることでこのギャップを解消し、双葉郡の内から外から復興の気運を高めようと、復興スタディツアー『SOU-SOU Re:born（リボーン）ツアー』を企画しました。「過去を知り、今を感じ、これからを考えること」をテーマに、そこに当たり前にあった日常を被災地の人が取り戻すために何ができるか、より多くの人に考えていただくきっかけ作りの場を提供しています。

相双地域支援サテライト　島崎 延雄

リボーンツアー

３つのプログラム

１．ボランティア活動プログラム

相双地域で必要とされているボランティア活動に取り組んでもらいます。（草刈りや伐採、家の片付け、営農を再開した農家の手伝いなど）

２．体験・研修プログラム

地域の人から直接話を聞く機会を多く設定し、被災地の現状・課題を理解するとともに、避難所ルール作り研修プログラム、防災研修プログラムなどのワークショップを通して被災当時の追体験や地域課題を認識してもらいます。また参加者があらかじめ設定した課題を念頭に置きつつ地域を訪れ、地域の実情を知るとともに対策を検討・提案してもらいます。その他、相双地域の課題をケーススタディとする課題解決研修も実施しています。

３．体験・地域おこしプログラム

地域との自発的で継続的な関係作りに取り組んでもらいます。地域を元気にするために自分がやりたいことをワークショップなどで設定し、その解決案を考え、実行することを最終目的とします。

2018年4月～実施してきたリボーンツアーを一部ご紹介！

１．ボランティア活動で地域に貢献！

ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ

●日　程　：第１回　６月２２日（金）
　　第２回　９月８～９日（土・日）
　　第３回　９月２８日（金）
●参加人数：のべ９６名（第１回 24名、第２回 55名、第３回 17名）
●活動場所：NPO法人Jin（浪江町）、Jヴィレッジ（広野町）、とみおかワイン栽培クラブ（富岡町）
●当日の様子：昨年度からツアーの計画を進めてきたジョンソン･エンド･ジョンソン日本法人グループ。６月に実現した第１回ツアー当日は、社長を始め各部署のトップの方々が浪江町で花卉栽培に取組むNPO法人Jin代表川村さんの畑で汗を流しました。ボランティア活動だけではなく、浪江町の震災後の歩みや現状を知っていただきました。
その後この活動がきっかけとなり、各部署のトップの方々がそれぞれ自分のチームの社員を連れてきてくれ、第２回、３回とツアーが実現。地域との関わりが広がっています。

参加者の感想

ボランティアで福島に行く度に現地の復興の様子とともにそこで頑張っておられる方々の意気込みと 歯がゆさを感じ、毎回自分でももっと何かお手伝いできるのではないか、できることがあるのではないかと考えさせられます。現地に行ってみなければ感じられないことが非常に多いのでまたぜひ伺い、少しでも力になりたいと思います。今回は非常に貴重な機会をいただきありがとうございました。

２．研修プログラムで地域と共に考える！

武田薬品工業株式会社

●日　程　：８月２５日（土）
●参加人数：１５名
●研修内容：東京電力福島第二原子力発電所・Jヴィレッジ視察、防災ワークショップ
●当日の様子：2016年以降、宮城・福島を中心にボランティア及び社員研修のスタディツアーを毎年行っている武田薬品工業(株)日本オンコロジー事業部。リボーンツアーへの参加は今年度が２回目でした。
今年度は昨年度行けなかった東京電力福島第二原子力発電所の視察及び再開になったJヴィレッジ訪問と防災ワークショップを実施。和やかな中にも真剣に取り組む姿勢が印象的でした。

参加者の感想

2016年から定期的に被災地を訪問しており、４回目となる今年の訪問では社員15名が参加しました。福島第二原発やJヴィレッジの見学を通じ、災害に対する理解を深めるとともに前向きに復興に取り組んでいる現地の方々との交流を通して、社員はプラスのエネルギーを受け取っています。これからも被災地の訪問を続けたいです。

武田薬品工業株式会社
日本オンコロジー事業部　事業企画グループ
主席部員　今井亮翔さん

ソニー株式会社

●日　程　：９月２９日（土）～３０日（日）
●参加人数：１９名
●研修内容：新妻有機農園（広野町）にてタマネギの苗の剪定、新妻ご夫妻から震災・原発事故後の農業再建への取り組みについてお話を伺う
●当日の様子：社員有志のボランティアバスを岩手・宮城・福島に30回以上出し、積極的に被災地支援に取り組んでいるソニー。昨年度も７月と11月にリボーンツアーに参加され、収穫の手伝いや「避難所生活づくりワークショップ」を行いました。今年度は新妻有機農園にて作業を手伝うだけでなく、震災と原発事故で受けた被害の大きさやどのように再建に取り組んでおられるのか話を伺うプログラムを実施し、地域の抱える課題を認識していただきました。

参加者の感想

今回参加して感じたことは、話を聴くことの尊さです。人はしっかり聞いてくれると感じると自分を振り返り前に進めるのでは、と感じました。
被災地の皆さんが未来志向で前を向いていけるよう、これからも丁寧にお話を伺う姿勢を大切にしたいです。
リボーンツアーは毎回、相双地域の方との交流を通して充実した活動を提供してくださいます。今後も魅力的なツアーに期待しています。

３．地域おこしプログラムで地域課題に踏み込む！

GOOGLE JAPAN LLC

●日　程　：７月６～７日（金・土）
●参加人数：２３名
●取り組んだ課題：地域農家の安定拡大を目指すアイデアソン
●当日の様子：昨年度に続き２回目の参加となったGoogle Japan。昨年度参加した方が今年度も来てくれたりと、継続して相双地域に関わってくれています。今年度のプログラムは、被災当時からこれまでのことや、双葉郡で農業を続けることの強い思いれなどの話を聴いた後、営農の安定拡大を目指すために何をやるべきかについて、アイデア出しワークショップを実施。グループごとの発表会では、アヒルを使った有機農法を実践しているという特徴を生かしたブランディング戦略を中心に独創的で具体的なアイデアが多数発表されました。

株式会社三菱総合研究所

●日　程　：事前研修８月６日（月）　実地研修９月３～４日（月・火）　社内報告会１０月５日（金）
●参加人数：４２名
●取り組んだ課題：地域課題の解決案策定ワークショップ
●当日の様子：平成30年度新入社員研修を福島の被災地で実施することになった三菱総合研究所。相双リボーンツアーで受け入れました。事前研修で設定された課題を実地研修（リボーンツアー：現地視察、交流など）の中で検証しつつ、地域の自治体職員と共に解決策を検討するワークショップに臨みました。
事前研修、実地研修、報告会と進む中で、新入社員のみなさんの議論内容や顔つきなどに顕著な変化が見られました。「研修のために作られた課題とは違い、本当の課題は分かりづらく解きづらいこと」、「問題は会議室で起きているんじゃない、現場で起きている」などの感想、気づきが寄せられました。

数字で見る SOU-SOUリボーンツアー

- 2017年にスタート
- 受入企業・団体数 15
- 参加者数のべ 671名

ふたばぐるぐるMAP　第４弾発行！

相双地域支援サテライトが「ふたばの明日を考える会」と協力して道路情報の発行をしている「ふたばぐるぐるマップ」も第４弾となりました。版を重ねるごとに掲載情報も増え、双葉郡の復興の進み具合が実感できます。今回は道路状況の更新のほか、地域の皆さんに親しまれている「山」や花の情報を追加しました。
双葉郡内を中心に、役場やコンビニエンスストア、ガソリンスタンドなどで入手できますので、ぜひ、ご活用ください。